

スイス大使館によるコミュニケーション・プログラム開幕! 「Vitality.Swiss」 ー ゆたかな未来って?

スイス大使館は、2025年に開催される大阪・関西万博に向けたコミュニケーション・プログラム「Vitality.Swiss」ー ゆたかな未来って?を開始します。ヘルシーライフ、持続可能な地球、人間中心のイノベーションの3つのテーマを柱に展開するこのプログラムは、多彩なイベントの開催やVitality.Swissウェブサイトでのスイスの情報を発信・共有しながら、共にゆたかな未来を考え、築き合うことを目指すものです。

Vitality.Swiss (バイタリティ・ドット・スイス)ー ゆたかな未来って?は、在日スイス大使館がスイス関連機関や日本のパートナーと共に進める、日本の皆さまへ向けたコミュニケーション・プログラムです。およそ160年にもなる友好の歴史を基盤とし、多くの価値を共有、志を共にするスイスと日本。私たちは現在、気候変動やデジタル社会の実現、超高齢化社会といった共通の課題に直面しています。今、私たちには何ができるのか、2025年まで続くVitality.Swissがスイスと日本の皆さまとの対話と創出の場となり、私たちのゆたかで活力ある未来のための解決策とシナリオを生み出すことを期待しています。

Vitality.Swissでは、2025年の大阪・関西万博に登場するスイス・パビリオンで示される、スイスのヘルシーライフ、サステナビリティ、イノベーションへのより深い理解へとつながるプログラムが展開されます。また、Vitality.SwissはTeam Expoの共創パートナーとして、日本とスイスの多様な共創チャレンジの創出・支援をも担うものです。

Vitality.Swiss - ゆたかな未来って? 3つのテーマ

ヘルシーライフ (Healthy life)

優れたガバナンスにより実現されるスイスの健康的なライフスタイル。スイスの人々の食と栄養への意識、スイスの行き届いた医療システムの現状と展望など。

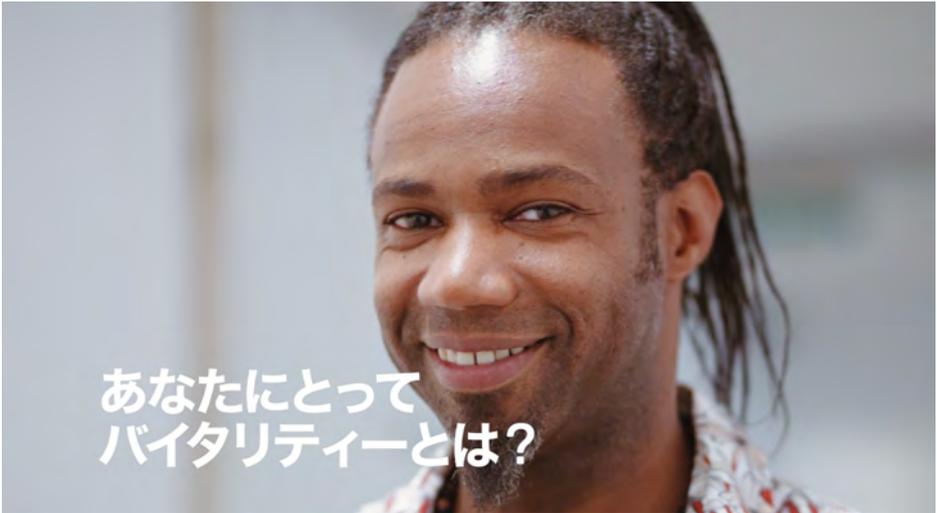
持続可能な地球 (Sustainable planet)

スイスが進める持続可能な開発、カーボンゼロのソリューション、グリーン・ファイナンス、生活のインテリジェント化・地域活性化について。

人間中心のイノベーション (Human-centered innovation)

持続可能な未来を実現するためのイノベーションの分野で世界をリードするスイス。それはスイスの先駆的な研究と人々の起業家精神に基づいています。イノベーションを用いてスイスが目指す未来とは?

Vitality.Swissショートムービー
画像をクリックして動画をご覧ください。



あなたにとって
バイタリティーとは？

Vitality.Swiss : イベントとデジタルコンテンツ

Vitality.Swissプログラムではデジタルコンテンツと共に、実際に体験できるイベント型のコンテンツも提供。イベントとデジタルコンテンツの双方から、日本の皆さまとの知識・意見の相互交流をめざします。

イベントの開催

Swiss Vitality Talk **シーズン毎に開催**

ヘルシーライフ、持続可能な地球、人間中心のイノベーションの3つのテーマにまつわるトークをスイスと日本の専門家とで開催。

第1回目は「COLLABORATIVE (協働) CONSTRUCTIONS (建設) : 循環・参加・目的型の社会へーデジタルファブリケーションと建築の実証から」としてUNIVERSITY of CREATIVITY (UoC) との共催で9月6日に行われました。アーカイブ配信リンク: [日本語/英語](#)。

Kizuki-au 築き合うーCollaborative Constructions **現在開催中**

在日スイス大使館、ETHチューリヒ、東京大学による「Kizuki-au 築き合うーCollaborative Constructions」は、国際芸術祭「あいち2022」の連携企画事業のひとつとして、常滑市で開催されている協働建築プロジェクト。今年7月の開幕以降、多くの訪問者を魅了しています(10月10日まで)。

Swisstech Pitch@CIC ~Life Science & Healthcare Innovation around BioJapan 2022~ **CIC Japan 2022年10月11日**

世界的な大手製薬企業が本社をおくスイスでは、産業・大学・研究機関が連携することにより、強固なライフサイエンス・ヘルスケア分野のイノベティブなエコシステムが形成されています。本イベントでは、BioJapan2022(2022年10月12-14日)に出展する先駆的なスイスのスタートアップなど9社が、その魅力を短く説明するピッチを行います。

SWISS PAVILION` BIOJAPAN 2022 2022年10月12`14日

展示・セミナー・パートナーリングで構成されるアジア最大級のパートナーリングイベント兼バイオテクノロジー展「BioJapan」にスイス・パビリオンを出展します。国際的な製薬・バイオテク・農業・化学企業が集中し、さらに多くの海外企業を惹きつけるスイスで活躍中の中堅企業、スタートアップ、イノベーション推進機関等14社/団体が、世界トップレベルかつ最新のライフサイエンス技術をご紹介します。会場：パシフィコ横浜 D` 21

スイス・日本経済フォーラム 持続的なバイタリティ:ウェルビーイング経営 2022年11月17日

在日スイス大使館、在日スイス商工会議所、IMDビジネススクールが共催する今年のフォーラムでは、スイスと日本の両国の卓越した起業家・識者・実践者を招き、「職場における持続的なバイタリティの実現」のための方法を探求していきます。ウェルビーイング経営の企業パフォーマンスへのインパクトは？最先端のテクノロジーから引き出せる智慧は何か？効果的なガバナンスや人的資源マネジメント（HRM）に関する見識を深めることを目指します。

Creative Residency Arita: スイスプログラム 2023年1月-3月

スイスを拠点とするデザイナー1名が、佐賀県有田町に3か月間滞在し、地元の職人と共同で独自の陶磁器のデザインプロジェクトを開発する機会を得るレジデンスプログラム。Creative Residency Arita (CRA) とスイス大使館のコラボレーションとして有田町と佐賀県が主催し、スイス政府が後援しています。コロナ禍での延期を経て、プロダクト・デザイナーのカルロ・クロパス (Carlo Clopath) が、プログラム初となるレジデンスを行います。

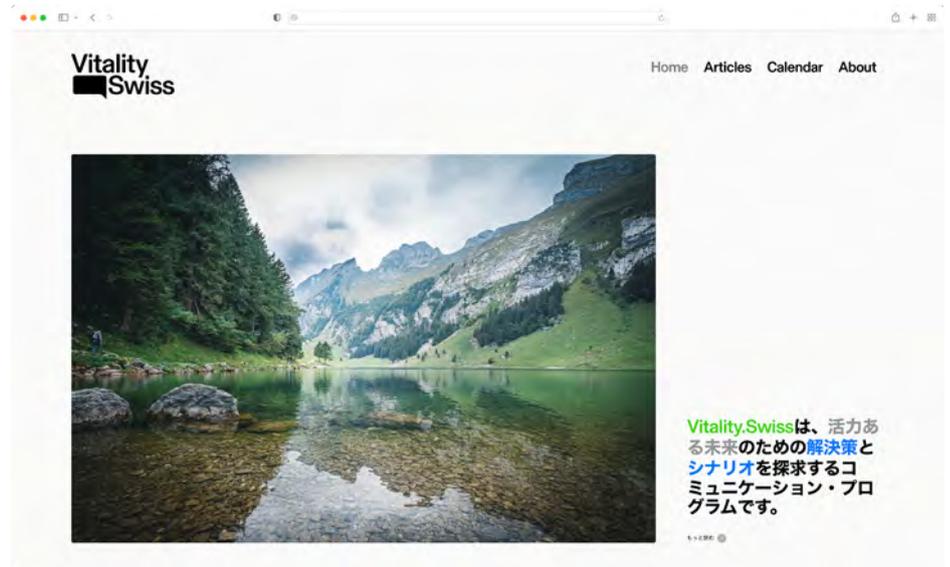
展覧会 ローザンヌ国際バレエコンクール展(仮) 2023年2月3日-15日

才能豊かな若いバレエダンサーがプロの道に踏み出すことへのサポートを目的とするローザンヌ国際バレエコンクール（正式名称：Prix de Lausanneプリ・ド・ローザンヌ）は、2023年にその50周年を迎えます。教育プログラムが盛り込まれた革新的なバレエコンクールの50年を、日本ファンへのスペシャルコンテンツと共に、東急文化村のBunkamura Galleryで展示します。Vitality.Swissではヘルシーライフのいち要素として、健康・身体性を象徴するコンテンポラリー・ダンスにも注目し、対話を提案していきます。

今後のイベント情報はVitality.Swiss Webサイトやニュースレターで随時ご案内します。ニュースレターへの登録はVitality.Swissをご覧ください。

デジタルコンテンツ Webサイト Vitality.Swiss

Vitality.Swissプログラムで行われるすべてのコンテンツ・イベント情報を網羅するWebサイトのアドレスはVitality.Swiss。ヘルシーライフ、持続可能な地球、人間中心のイノベーションの3つのテーマのもと、様々なスイスの最新情報をお届けします。映像コンテンツやPodcastの開設、そしてスイス大使館のSNSから発信される情報も全て集約。ここを見ればスイスの情報通になれるかも？そんな情報発信基地です。



コンテンツの例:

[ミツバチのコロニーを守り、維持するために](#)

[クリーンテック: 廃棄物](#)

[スタイリッシュなソーラーファサード](#)

[クリエイティブデュオGet It Studioが中銀カプセルタワービルの来世を考えたら？](#)

[デニムをよりグリーンに](#)

[ELI000－自宅用の水耕栽培システムをDIYで小さなアパートに？](#)

Swiss Vitality Podcast

スイス大使館が新たに開設するSwiss Vitality Podcastでは、アドバイザーにラジオプレゼンター、DJでサウンドアーティストのニック・ラスカムを迎え、バイタリティにまつわるトピックをシーズン毎にお届けします。

SNS

スイス大使館の各SNSでも随時情報を発信します。ぜひフォローください。



プログラムアンバサダー

2025年まで私たちと一緒に「ゆたかな未来」を探るVitality.Swissアンバサダーたち。スイスと日本に関わるバイタリティあふれる頼もしいアンバサダーがそろいました。



© David Vintiner

藤本 壮介(ふじもと・そうすけ) 建築家

北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞(ラルブル・プラン)に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。2021年には飛騨市のCo-Innovation University(仮称)キャンパスの設計者に選定される。スイスでも、ザンクトガレン大学HSGラーニングセンター「SQUARE」が2022年に完成、さらにチューリヒの複合施設「Meet」のプロジェクトも進行中。 www.sou-fujimoto.net



エリザベト・シュナイダー=シュナイター(Elisabeth Schneider-Schneider) スイス国民議会議員、スイス・日本友好議員連盟会長

スイス国民議会議員として特に健康と持続可能な経済のために積極的な活動を行う。外交委員会メンバー、EFTA/EU代表団のメンバー、バーゼル商工会議所会頭、スイスの企業が構成する国内最大の経済連合エコノミースイス(economiesuisse)の理事も務める。2014年日スイス国交樹立150周年を機に誕生したスイス・日本友好議員連盟の会長として、スイス友好議員連の初来日時の団長も務めた。

schneider-schneider.die-mitte.ch



衛藤 征士郎(えとう・せいしろう) 衆議院議員、日本スイス友好議員連盟会長

大分県出身の衆議院議員。1977年の参議院初当選を経て1983年から衆議院議員。防衛庁長官、外務副大臣、衆議院予算委員長、衆議院副議長などを多々歴任。日本スイス友好議員連盟会長として、2017年のスイス・日本友好議員連盟の初公式訪問に尽力。日本とスイスはもちろん、大分県とスイスとのかけ橋の役割も担う。 www.seishiro.jp



マヤ・ミンダー(Maya Minder) アーティスト、キュレーター、料理人

イートアート(Eat Art)分野で活躍する彼女の食卓には、おいしいお料理と共に文化的交配や人的共進化など、まだ消化されていない課題も並ぶ。ストーリーテリングやパフォーマンス、インスタレーションを用い、食卓の周りに人々を集め、料理と食事を人々と共にする。乳発酵の専門家として、細菌、菌類、植物、藻類を扱い、キッチンはもちろん、映像制作や工芸品、素材研究に生物学の知識をも応用する。また、手つかずの自然を調理された文化へと加工する人的攪拌の隠喩として、自然発酵を利用している。フェミニストの歴史に倣い、アートサイエンスやクィア理論を取り入れ、自身のアーティスト活動を実践中。 linktr.ee/mayaminder



© Ayako Suzuki

小尻 健太(こじり・けんた) ダンサー・振付家

1999年ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル・スカラシップ賞受賞。振付家イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアター1に日本人男性として初めて入団。2010年退団後、『Study for Self/portrait』、小尻健太+森永泰弘『The Threshold』等の創作を軸にダンサー・振付家として国内外で活動。これまでの創作のベースにある「記憶」を「記録」というテーマをもとに、身体表現と環境との関係性のより幅広い展開を目論み、ジャンルや世代を横断した表現を探索している。他、オペラやミュージカルの振付、「さいたまダンス・ラボラトリ」講師/ナビゲーター、フィギュアスケート日本代表選手の表現指導、Dance Base Yokohama、穂の国とよはし芸術劇場PLATのレジデンスアーティストを務める。Vitality.Swissのローンチプロジェクト「Kizuki-au 築き合う Collaborative Constructions」のための委嘱作品「Kizuki-au」を2022年8月1日に発表。 kojiri.jp



© Orthotec

マルセル・フグ (Marcel Hug) 車いす陸上競技選手

東京パラリンピックでは、トラックレースで1500m、5000m、800mでの3冠を果たす。競技時につける銀色のヘルメットから「銀色の弾丸」の愛称で知られる。出生時から二分脊椎症のため、車椅子の生活となる。1996年、10歳で初めてジュニアレースに出場し、車椅子陸上競技を始める。2004年のアテネパラリンピックにスイス代表選手として出場し、800mと1500mで銅メダルを獲得し、スイススポーツアワードで新人賞受賞。2010年からプロスポーツ選手として活躍。2018年には「スポーツ界のアカデミー賞」とも言われるローレウス世界スポーツ賞の2017年の年間最優秀障害者選手賞を受賞。日本でも大分国際車いすマラソン（フルマラソン T34/53/54）で、2021年までに9回優勝を果たし、2021年大会では1時間17分47秒の世界新記録を樹立するなど、スイスを代表するアスリート。 www.marcelhug.com

**竹内 智香 (たけうち・ともか) スノーボード アルペン 選手**

1998年、14歳のときに長野オリンピックで衝撃を受けスノーボード競技での五輪出場を決意。その後2002年には高校生ながらソルトレイクシティ オリンピックに出場し、パラレル大回転で22位の成績を残す。2007年から2012年頃までスイスのナショナルチームとともにトレーニングを積む。トリノ、バンクーバー、ソチと4大会連続でオリンピックに出場。ソチでは銀メダルを獲得し、日本人女性のスノーボード選手で初のメダル獲得という快挙を達成し、2018年に開催された平昌オリンピックでは5度目の出場を果たした。オリンピック以外でも2012年のワールドカップで1位を獲得、2015年の世界選手権では銅メダルを獲得するなど、スノーボード界に名を残す成績を収めている。さらに2020年に休止していた競技活動への復帰を宣言し、再び拠点をスイスナショナルチームに移した。2022年には冬季五輪女子選手史上最多の6度目となる北京五輪への出場を果たす偉業を成し遂げた。所属：広島ガス tomoka-t.net

**クリスティアン・シュワルツェネッガー (Christian Schwarzenegger) チューリヒ大学学部・科学情報担当副学長 (弁護士)**

1994年から1999年まで、日本の2つの大学（愛知県・新潟県）でも指導。研究テーマは、被害者学、家族内暴力、ストーカー、犯罪抑止に対する一般市民の認識、サイバー犯罪やコンピューター犯罪など。チューリヒ市警察と共同で犯罪防止研究プロジェクトも行う。スイステレビ (SRF) では、50本以上の犯罪ドキュメンタリーの専門家として活躍し、最近では「マッターホルンに死す」(SRF/BBC 2015年) に登場。2020年まで国際関連を担当し、チューリヒ大学初の国際化戦略 (2014年～2020年) を立ち上げ、新しい国際サービスや、Universitas 21への参加など、戦略的パートナーシップやネットワーク活動を積極化。2022年に運営をスタートさせた新大学図書館プロジェクトでは、30以上の学部・研究所の図書館が組織的に統合された。 www.uzh.ch



© Muryo Honma (Rhizomatiks)

齋藤 精一 (さいとう・せいいち) パノラマティクス 主宰

建築デザインをコロンビア大学建築学科 (MSAAD) で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。Omnicom Group傘下のArnell Groupにてクリエイティブ職に携わり、2003年の越後妻有アートトリエンナーレでのアーティスト選出を機に帰国。2006年株式会社ライゾマティクス (現:株式会社アブストラクトエンジン) を設立。社内アーキテクチャー部門『パノラマティクス』を率い、現在では行政や企業などの企画、実装アドバイザーも数多く行う。2018年、2022年グッドデザイン賞審査委員副委員長。2025年大阪・関西万博People's Living Labクリエイター。 panoramatik.com



マティアス・ロイエンベルガー (Matthias Leuenberger) ノバルティス・インターナショナル、スイス カントリープレジデント

ノバルティスのスイスのカントリープレジデントとして、ノバルティス・スイスの執行委員会会長を務める。スイスのノバルティス社の政治的関係の責任者。また、ノバルティス社を代表して、研究開発製薬産業協会であるインターファーマ (Interpharma)、会長職も務めるscienceindustries (サイエンスインダストリー)、副会長を務めるスイスの企業が構成する国内最大の経済連合エコノミースイス (economiesuisse)、HKBB (バーゼルシュタット州貿易商工会議所) の各経済団体に参加。なおノバルティス入社前に東京でコンサルタントとして勤務をした経験も持つ。 novartis.com



吉田 柚葉 (よしだ ゆずは)

福島県出身。上智大学2年生。2020年、磐城高校2年生の時に、スイス大使館と東日本震災被災児童の自立を支援するSupport Our Kidsの共同プログラム『Support Our Kids スイスホームステイプログラム』に参加し、東北被災地を代表する復興アンバサダーとして、スイスで2週間を過ごす。ローザンヌ2020ユースオリンピック競技大会でのボランティア体験や、IFRC、UNOCHA、IOCなどの国際機関を訪問して人道について学ぶとともに、自身の東日本大震災の経験を発表した。その経験から、国際問題に興味を持ち、現在は上智大学総合グローバル学部で国際関係や市民社会論について学んでいる。

Vitality.Swiss アイデンティティ



Office for Typography

Vitality.Swissのブランド・アイデンティティを手がけるのはスイスの新進気鋭のグラフィック・タイプデザイナーのトリュー (Trieu) 兄弟が主宰するOffice for Typography。兄弟共にローザンヌ美術大学 (ECAL) を卒業後2016年Office for Typographyを設立。以来Balenciaga, Bottega Veneta, Marc O'Polo, Nike, Pandora, SwatchやUniqloなどのWEBサイトやブランディングを手がけ注目を集める。現在、ローザンヌと大阪を拠点に活躍中。

主催

在日スイス大使館

パートナー

スイス連邦外務省 プレゼンス・スイス、在大阪スイス領事館/Swissnex in Japan、スイス大使館科学技術部、スイス・ビジネス・ハブ貿易投資促進、スイス政府観光局

ブランド・アイデンティティ

Office for Typography

イメージ映像制作

Kohei Yamaguchi

プレス資料

ダウンロード

問合せ

在日スイス大使館

広報文化部

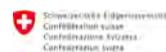
高橋優子

+813 5449 8437

tokyo.culture@eda.admin.ch



Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館



Embassy of Switzerland in Japan
Science & Technology Office Tokyo
科学技術館



Vitality.Swiss [vitality dot swiss]

Vitality.Swiss は在日スイス大使館がパートナーと共に進める2025年大阪・関西万博へ向けたコミュニケーション・プログラム。ヘルシーライフ、持続可能な地球、人間中心のイノベーションの3つのテーマから、ゆたかな未来を築き合うプログラムを展開します。